

## 時間を超越したエリヤの時代

アミール・ツアルファティ

- 神はエリヤを通して、どんなメッセージを語っているのか -

<https://youtu.be/iKNJmOS3XAI>

アミール 「行こうか？」

アリエル 「オッケー！」

アミール 「おお…はあ…もうちょっといけるかと思ってたけど…ダメだ。ふーっ、30分走って、もう死にそう  
だ。」

アリエル 「だね。」

アミール 「今、思ってたんだけど、カルメル山は…」

アリエル 「エリヤ？」

アミール 「預言者エリヤは、どれだけ体力が必要だったんだろう。850人の預言者を殺すのに…」

アリエル 「そうだね…ちょっと待って?! どういうこと?! 彼は850人も殺したの!？」

「なんでそんなに驚くんだい？」

アリエル 「彼は預言者でしょ？神を恐れる預言者。そんなことする必要なかったんじゃない？狂気じみてるよ。」

アミール 「狂気じみてるさ。分かってる。エリヤは確かにバアルとアシェラの預言者を850人殺した。でも、これは  
隠せないことなんだよ。これは話の一部で、それには理由があるんだ。」

## “時間を超越したエリヤの時代” アミール&アリエル・ツアルファティ

アミール 「もし神が全知全能で、唯一の神なら、なぜ神はイスラエルの民が他の神を拝むのを恐れるんだろう、と思  
うだろ？それを理解するためには、大きな視点で考えなくてはいけない。」

### 全ての物語にはその舞台がある

カルメル山は、聖書において、常に特別な位置を占めています。イスラエルの人々にとって、特別な意味がありま  
す。

「カルメル山は、見事な山々の連なりで、一つの山じゃなくて、山脈なんだよ。それが、最も重要で有名な交易ル  
ートを遮っていたんだ。歴史の中で、世界におけるこの場所は、『海への道』で、ローマは“Via Maris (ヴィア・マリ  
ス)”と呼び、この交易路は、南はエジプトから地中海沿いを通り、メソポタミアとアナトリアに通じていた。こんな  
場所はイスラエルには他にない。一カ所に高くそびえたって、その下に、谷や、交易路や、イスラエルの5部族が出  
会う部分でもある。そのせいで、カルメル山は、とても重要な場所になったんだ。この場所は、この国の穀倉地帯で  
知られる部分で、ここでは、昔からいろんな作物が育ち、とても豊かだったから、イスラエルの敵は、収穫期にこの  
場所に侵入して、作物を奪ったり、略奪したり、盗んだりしたんだ。カルメル山の“カルメル”という名前は、2つの  
ヘブル語から出来ていて、“קַרְמֵל” “神のぶどう畑”。それは、必ずしもブドウ園そのものとは限らず、繁栄、平  
穩、肥沃さが全てで、だからソロモンも雅歌の中で歌っている。

「あなたの頭はカルメル山のようにそびえ…」 (雅歌7:5)

こんな風にカルメル山は、その名前、その性質から、繁栄し、美しく、青々として、緑豊かなものだったんだよ。それが、この国の人にとって、どれくらいの危機だったか想像出来るか？3年半の間、一滴も雨が降らず、だから、この場所に来て、何とかしてくださいと、神に嘆願した。」

### 全ての物語には英雄がいる。

アミール「アリエル、ここがムラカだよ。ああ、閉まってるね。」

ここは、本来バアルとイスラエルの神のコンテストがあった場所だと信じられています。

アミール「ムラカ、という名前は、実際はアラビア語で『燃やす場所』『火の場所』。聖書の記述に基づいている。」

ここは、預言者エリヤに最も多く関わる場所だと確認されていて、最も有名な話は、列王記第一18章の物語です。この国の状況は、間違いなく大惨事、3年半、雨が全く降らず、人々はバアルとアシェラ崇拝に陥っていました。豊穡の神です。エリヤが、カルメル山の頂上に、バアルとアシェラの預言者と、全イスラエルの民を招集した時、彼は、人々を説得しようとしてしました。「選択しなければならない。」

アリエル「お父さん、聖書の時代の人々は、僕にはあまりにもかけ離れていて、もしエリヤが、今日、ここにいたら、彼はどんな格好をしていて、僕たちは彼にどう反応しただろう。」

アミール「彼は君や僕と同じだよ。アリエル、彼は…実際、私には、簡単に彼と自分が重なるよ。エリヤは、実際、普通の人の完璧な例だよ。強さを持ち…肉体的な強さはもちろん、でも、ある意味では弱さもあって、いつも一人になるうとして、彼の中には、重度の鬱病と隣り合わせのような一面もあった。エリヤは、ここでもの凄い勇気を見せたかも知れない。でも、次の章、その出来事の後で、彼は逃げていて、“臆病エリヤ”だった。激しく怒る女王イゼベルから逃げ、彼は、ひどく恐れていた。彼女は、彼を殺そうとしていたから。そこで彼は、砂漠まで逃げたんだ。でも、一つだけ確かなのはね。エリヤは、この国への重荷を感じていたんだ。イスラエル史上で最も恐ろしい王の一人の前に、たった一人で立って、神に従っていないことを非難したんだからね。アハブに逆らったらどうなるか、誰もが知っていた。つまり、直ちにイゼベルに首をはねられる。」

私が思うに、彼には、人間の能力を超えて、現実を見る力があったのでしょうか。

アミール「つまり、今、私たちが話しているのは、エリヤが王に<sup>たいじ</sup>対峙して、彼らは、ある考えを思いついたんだ。それなら、皆をカルメル山の頂上に集めて、バアルとアシェラの預言者たちには、彼らの神の名を呼んで火を送るように求めさせ、エリヤは主の御名を呼び、火を送ってくださるように求めよう。そして、火を送った神が…」

アリエル「真の神？」

アミール「真の神だ。その日は、とても暑くて、それで、エリヤは、人々がこんな風にいうのを恐れたんだ。『きつと、乾燥した薪に<sup>たきぎ</sup>火がついたんだらう。』とか。それでエリヤは、薪を水で浸して、それから、周りに溝を掘って、水で満たしたんだ。そうすれば、火が起こって薪を焼き尽くしたなら、間違いなく天から来たものだ、となるからね。そして火が降って、焼き尽くしたんだよ。水も、そして薪も、それから、切り裂いてささげた雄牛も、もちろん石も、何もかも。小さなハリケーンのように。そして、イスラエルの民は、『うわぁ』と唯一その時、民は『主こそ神です。』とひれ伏し、そして彼らは、その850人を捕らえて、キシヨン川に連れて行って、エリヤは、そこで、彼らを処刑した。」

私が思うに、エリヤが神の召しに応えることに同意した理由は、彼が、他の人には見えなかった何かを見たからでしょう。私にとって最も重要な疑問は、彼は何を見て、神のことに従うに至ったのか？それによって、直接、命を危険にさらしてまでも。彼の決意は、それ程だったのです。それを理解するためには、この話の中の、エリヤの“メネシス”（応報天罰の女神）を理解しなければなりません。その為には、ここからほど近い場所にある遺跡、イズレエル遺跡に行かなければなりません。

イスラエル遺跡は、比較的最近になって発掘され、アハブ王とその妻、イゼベルが、宮殿を建てた要塞都市であった事が確認されました。そこは、北イスラエル王国の全ての交易・輸送ルート进行管理するのにとても便利な位置にあり、新しい首都として、完璧な場所でした。

**アミール**「ほら、アリエル、古代イスラエル、イスラエル遺跡に着いたよ。イスラエル遺跡は、もう一つの谷、ハロデへの入り口にあるんだ。それは、ここから東に延びていて、ギデオンが、メディアン人と戦った場所だよ。」

イスラエルの遺跡は、恐ろしい指導者を彷彿<sup>ほうふつ</sup>とさせます。ここは、当時、多くのトラブルの中心地でした。

「それは、恐ろしい指導者の物語なんだ。指導者としてのアハブ、イスラエルの王で、妻のイゼベルはユダヤ人でなかった。彼女は、イスラエルで生まれた訳でもなく、異教バアルとアシェラを崇拝するシドンの王の娘だった。基本的に、それを持ち込んだのは王であって…アリエル、彼が、バアルとアシェラの崇拝と、その預言者たちを妻の故郷から、この国に持ち込んだ。だから、イゼベルと預言者には、深い繋がりがあったんだよ。預言者たちは、彼女の食卓に座し、彼女は、イスラエルに“再教育プログラム”を持ち込んだ。彼女の霊は、今日でも『イゼベルの霊』と呼ばれ、存在している。操る<sup>あやつ</sup>霊、惑わしの霊、誘惑の霊。彼女は夫を誘惑して、自分の思うままに動かし、彼女は、この国全体を欺<sup>あざむ</sup>こうとしたんだよ。『彼らをこの国に連れて来た神は、真の神ではなかった』と。」

「アリエル、向こうの下の方が見える？」

**アリエル**「うん。」

**アミール**「あそこには、ぶどう畑があったんだ。そこは美しく青々とした土地で、ネイボスという人のぶどう畑があったんだよ。ヘブライ語でナボテ。そのぶどう畑は、何年にもわたって、彼の一族のものだったんだ。当時、ユダヤの人々は土地を売らず…、ところで、モーセの律法によって、土地を売ることは禁じられていて、土地は神のもので、売るものではなかった。それが、アハブ王はナボテの所に行き、『おまえのぶどう畑が気に入った。私の宮殿のすぐ下、私の街のすぐ下にある。私に譲ってほしい。私は買いたい。』ナボテは答えたんだ。『これは私の先祖の譲りの地で、あなたに売ることはできません。』あなたに売ることはできません!!『私の意思だけでなく、神のことに反しますから。』そしたらなんと、彼は非常に怒って、宮殿に戻り、寝台に横になって、不機嫌だった。そこにイゼベルが来て、とても誘惑的で、欺き、操る<sup>あやつ</sup>霊をもって、『どうしたのですか？あなた。』アハブは、『私はあのぶどう畑が欲しかったのだ。でも、あの男は、売ろうとしなかった。』と。彼女は、『あなたは何と意気地なしなのですか。起きてください。あなたはイスラエルの王です。立ち上がってください。私がそれをあなたの手に入れてあげましょう。』彼女が何をしたと思う？欺く<sup>あやつ</sup>霊をもって。彼女は手紙を書いたんだ。王の代理として。街の長老たちに宛てて、『ナボテを引き出して、神を冒瀆したと非難しなさい。』と。もちろん、突然、彼女は、それに伴う罰に興味を持った。つまり、石打ちの死刑。そこで誰が来たと思う？そしてアハブに、面と向かって、真実を告げた。「エリヤ。」「エリヤだよ。そしてその日、エリヤは、驚くべき方法でアハブに挑戦したんだ。それで、アハブは人々に命令を下した。『カルメル山に上って、イスラエルの民に証明しなさい。バアルとアシェラは真の神々であり、真の神々、真に崇拝すべきであると。』

今、ここで見ているものからは、エリヤの時代の様子は想像が付きません。想像してください。高速道路も、都市も、橋もない。でも、土地は今も同じです。これがキシオン川です。そして、この辺りのどこかに、聖書の筆者は、850人の血まみれの死体があった事を示しています。

**アリエル**「キシオン川だね。」

**アミール**「その通り。見てごらん。今は水でいっぱいだよ。良い年だったと認めないといけないな。たくさん雨が降ったよね。だから、まだ水がここを流れているんだ。エリヤが850人を、わざわざキシオンの小川まで連れて来たのには理由があるんだ。古代の文化では、人々は、バアルと呼ばれる神と、彼の愛人でアシェラと呼ばれる女神がいると信じていた。常に男の神と女の神がいたんだ。豊穡<sup>かたわら</sup>の神と女神。土地の住民は、とても宗教的で、とんでもなく墮落していた。彼らは初子を連れてきて、この水の傍で、この川の傍で殺したんだ。さて、次にイスラエルの民。彼らがまさに、イスラエルに入ろうとしていた時、神は、文字どおり、彼らに警告していた。『あなたがたは、理解しなさい。第一に、子供を、わたしへのいけにえにしてはならない。第二に、わたしは、あらゆる忌み嫌うべき行為、

つまり、性的倒錯を憎む。』ここに住んでいた人々の文化は、特に子供に関しては、非常に墮落していたんだ。彼らは、子供たちに火の中をくぐらせ、火の中で彼らは、赤ちゃんを焼いていたんだよ。申命記12章31節には、こう書いてある。」

「あなたの神、主に対して彼らのように礼拝してはならない。彼らは主が憎むあらゆる忌み嫌うべきことをその神々に行い、自分たちの息子、娘を自分たちの神々のために火で焼くことさえしたのである。」  
(申命記12:31)

「それから、18章9-10節には、こう書いてある。」

「あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地に入ったとき、あなたは、その異邦の民の忌み嫌うべき慣わしをまねてはならない。」  
(申命記18:9)

「はっきりさせておこう。彼らは預言者なんだ。彼らは指導者で、国のために儀式を執り行い、赤ちゃんたちを殺していた。これらの人々は、想像できないくらい手が血にまみれていたんだよ。だから、想像出来るだろう？ここで850人を殺すことで、エリヤは、数えきれないほどの赤ちゃんの命を救ったんだ。もう、この850人によって殺される事はない。

神は基本的にこう言われる。『彼らを追い出さなければならぬ。なぜなら、それは寛容から始まり、次に受容、そして推進するようになるからだ。』

見ての通りそれは民だけではなく、指導者から始まった。それは、そういう恐ろしい霊を持つ女性と結婚した王から始まって、彼女は神の預言者を殺し、バアルとアシェラの崇拝を促進し、聖書によると、異教の預言者たちは、宮殿で彼女の食卓に着いていたんだ。特定の人々を宮殿でもてなす、という事は、その人々は、自分のものだと皆に知らしめているのと同様で、つまり、メッセージを送っているんだ。「この人たちは私のものだ。私はこの人たちを好み、彼らを昇進させる。この人たちを求め、この人たちから学びなさい。」そして最終的には、指導者が、他のあらゆる礼拝を禁止し、唯一、その異教を拜ませるようになる。そしてまさにそれを、私たちは、今の世界で見ている。」

もし、エリヤの時代と今の時代を比べるなら、生活が、より快適に、より進歩し、より安全になったように見えるでしょう。特に、感謝な事に、イエスの教えの中心となる部分が、社会の中で、最も大事な価値観として根付いています。「人のいのちの価値」しかし、それでも、快適さと安全さが、より良い安定した未来を保障するものではありません。ちょうど、エリヤの話の中のイスラエルの民のように、私たちも同じくらい優柔不断で、不安定で、神を愛し、神に献身する事を、ためらいます。

現代的な人間性の視点から考えても、偽預言者を死刑にする預言者は、想像し難い事ですが、エリヤのメッセージの倫理は、今日も、なお極めて真実です。あなたは、いつまで、2つの明確な選択肢の間でためらうのか。それは、単純であり、それでいて耐えず続く、日々の選択です。

あなたは、どちらを選び、拝むのか？

聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。(申命記6:4)



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.06.20 (Sat)